

# NEWSLETTER

教育センターの更なる前進に向けて！教育研究発表会にご参加を！  
3月1日(土)午後1時から，永松記念教育センター大研修室 他

3月1日に開催する教育研究発表会に向けて，京都市内はもとより，近畿各地をはじめ，遠くは関東・中国・四国地方からもたくさんの参加申し込みをいただいています。永松記念教育センター研究課の取組に，深い関心を寄せていただいていることに感謝しておりますとともに，それに応えうる発表をと，研究員一同，心引き締めて準備を進めています。

今回のニューズレターでは，四回目を迎えた今年度の研究発表会の大きな特徴とその概要を改めてお知らせしますので，みなさんのご参加をお願いします。

発表会の申し込みは

2月20日  
締め切りです。



## 全体会では... 総合教育センターへ 清水所長からの提案

今年度，はじめて行う全体会では，清水武所長より「総合教育センターがめざすもの」と題した方向付けが行われます。すでに皆様ご存じのとおり，本年四月より，永松記念教育センターは「京都市総合教育センター」と名称変更し，文字通り京都市の教育の発展を支える拠点として，さらには新たな教育の在り方を全国へと発信していく場として充実を図ります。

とりわけ，そうした取組の中でも重要な役割が期待されているのが，新たに開設される「カリキュラム開発支援センター」です。これは，現在の研究課情報資料室を発展させ，各学校における教育課程の編成や，教育研究団体及び，教職員の自主的・自発的な研修・研究を積極的に支援することをめざして，設置されるものです。

ここでは，新たに，指導資料や教材を整備した「教材開発室」

(仮称)を設置し，教職員の皆さんの指導計画作成や授業改善に向けた相談やアドバイスにえられる体制を整えること，また，各学校のカリキュラム開発や校内研究の推進を支援していくために，「相談会」や「サポート講座」(仮称)を開設することなどに取り組みます。

さらに，教育資料や教材リソースコーナーの充実を図るとともに，京都市の豊かな教育実践を紹介し，交流するための情報冊子を発行し，全国に発信していくなどの取組も進めていきます。

「学校・教職員の確かな教育実践を支えるために」というサブタイトルにもあるように，清水所長からは，教職員の皆さんの教育活動を支援していく教育センターの今後の方向が提起されます。

## 分科会 では... 確かな教育活動のために

分科会 では，子どもと保護者100組に協力していただいた

家庭教育調査と，全国12の政令指定都市が共同で実施した子どもたちの生活意識調査の二つの結果から，確かな教育活動を進める上で共通理解しておきたい子どもたちの姿を報告します。

また，喫緊の課題となっている特別支援教育に関わる研究，小学校英語活動の在り方についての提案では，すべての子どもたちに等しく教育を保障していくために大切にしなければならないことを改めて確認し合いたいと思います。



## 分科会 では... 学習指導の充実のために

分科会 では，自己評価の意味を改めて考える学習評価の研究，学習内容の系統性をふまえ小・中学校が連携して進めた理科教育の研究，各教科の学習と関連させた情報教育の進め方，そして自らの力量を高めるための教員研修の在り方と，四本の研究発表を通して，学習指導を

進める上でもっておきたい視点や姿勢について、話し合っていく会にしたいと思っています。

分科会 では...  
豊かな心を育てるために

分科会 では、運動部活動の中で、「心の健康」を育ててきた実践、「生き方探究・チャレンジ体験」と連動して、子どもたちが生き方を見つめてきた道徳教育の実践、複数の教科や領域を組み合わせ進めた人権教育の実践と、小・中学生 3000 人を対

象に実施した学習意欲や学習の形態に対する意識調査結果を報告します。

子どもたちの豊かな心を、さらに育てるために、まず、その思いを把握すること、そして、あらゆる場を通して取り組むことを参会の皆さんと確かめ合っていきたいと思います。



事前申込が必要です。お早めに！

今回の研究発表会では、全体会と各分科会いずれの報告も、各学校やそれぞれの教職員の皆さんの実践に役立つものになると確信しています。

土曜日の午後という時間帯ですが、より多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

2月20日(木)までに、下記研究課宛にお申し込み下さい。

TEL 371-2705 FAX 353-4851

## 京都発！確かな教育実践のために1

### 『小学校英語活動 Q&A』を発売しました。

研究課では、昨年11月に京都市小学校英語活動実践研究グループの協力を得て作成・配布した、『小学校英語活動指導計画と活動事例集(試案)』に引き続き、この度、『小学校英語活動Q & A 英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする子どもを育てるための22のヒント』を発売しました。近々、市立小学校のすべての教員の皆様のもとへお届けする予定です。



前者の指導計画(試案)は、全国の都道府県・政令指定都市に先駆けて、教育委員会が発刊したもので、マスコミや関係各機関からたいへん注目されました。特に、現在、研究開発校や教科書会社などから公表されている指導計画のほとんどが、場面や話題を取り上げて組み立てているものの、何年生のどの時期に何を取り上げるのか、そして、その順序はという学習の系統性が定まらないという課題が指摘されています。このような状況の中で、本指導計画(試案)は、言語機能とそれに基づく語彙を基本に系統的な学習が組み立てられていることが大きく評価されました。文部科学省の委員でもある影浦攻宮崎大学教授や松川禮子岐阜大学教授、そして小学校英語教育学会の齊藤栄二関西大学教授といった研究者の皆さんからも、「今後の小学校英語の方向を示唆するもの」との言葉をいただいています。

今回の冊子は、この指導計画(試案)に基づいて学習活動を進める上で、是非ともふまえておいていただきたいことや、サブタイトルにもあるように活用上の留意点などをQ & A方式で分かりやすく、コンパクトにまとめました。校内研究会や学年会、外国語指導助手との打合せなどに是非ご活用下さい。

なお、研究課では、本年4月に開設される「カリキュラム開発支援センター」の大切な役割として、今後もこうした教育実践に役立つ資料集や事例集を、シリーズ「京都発！確かな教育実践のために」として続々と刊行していく予定です。ご期待下さい。